

2026 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題

総合型選抜（特別枠） 3 年次編入学試験 3 期

入試問題

試験科目：「小論文」

日 程：2026 年 3 月 17 日（火）

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

教育学部 子ども学科

対象コース： _____

[課題]

子どもの発達には共通する特徴も見られますが、それぞれ異なる資質や特性をもち、発達には個人差があります。したがって教育者は、年齢、学年で一律に判断するのではなく、その子どもが置かれた環境や段階に合った支援を考えることが求められます。

文部科学省は、子どもの発達を「身体的・情緒的・知的・社会的な側面が相互に関連し合いながら進む過程」と捉え、発達段階に応じた支援の重要性を強調し、発達段階ごとに重視すべき課題を提示しています。たとえば、乳幼児期では「愛着の形成」「基本的信頼感の獲得」「生活習慣の形成」「遊びを通じた社会性の芽生え」が課題とされ、小学校低学年では「善悪の判断」「規範意識の基礎の形成」「感性・情操の育成」、また小学校高学年では「自他の尊重の意識と他者への思いやり」「自己肯定感の育成」「集団活動の主体的参加」「社会への興味・関心」が重視されます。いずれの段階においても、発達の特性に応じた適切な経験や環境が保障されることが不可欠です。

以上を踏まえ、乳幼児期・小学校低学年・小学校高学年のいずれか一つを選び、その発達段階の特徴と重視すべき課題を述べ、その課題を支援するうえで、保育者・教育者は子どもにどのように関わると良いか考察してください。

その際、必要があれば、自身の経験を交えて述べてください。

[出題の意図等] ※問題用紙には記載されません。

- ・文部科学省の提言を踏まえて、子どもの発達段階の特徴と重視すべき課題を理解し、論述できるかを評価することを目的とする。乳幼児期・小学校低学年・高学年のいずれかを選び、その発達課題を整理し、教育者としてどのように支援すべきかを具体的に考察する力を問う。
- ・観点としては、①発達段階の特徴や課題を正確に説明できているか②課題の背景(個人差・環境・社会的要因)に触れ、論点を多面的に整理しているか③教育者としての関わりを具体的に考察し、理論と実践を結びつけているか④経験を必要に応じて取り入れ、自らの言葉で表現しているか⑤序論・本論・結論の構成が明確で論理の一貫性があるか、の5点で評価する。
- ・回答は、乳幼児期は「愛着」「基本的信頼感」(ボウルビィ、エリクソン)、小学校低学年は「善悪の理解」・「規範意識」(ピアジェ、コールバーグ、エリクソン)、小学校高学年は「自尊感情」「仲間関係」(エリクソン、サリヴァン、ピアジェ)、加えて保育者・教育者の関わりとして ZPD・スキャフォールディング、生態学的システム理論が直接の記述でなくとも暗に示されていることが望まれる。